

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第86号

発行:2022年12月5日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-1360

御正忌(おたんや)法座

日時 1月17日(水)

ご講師 長岡 正信師 (呉市 西岸寺住職)

朝席 9時~11時頃

昼席 13時~15時頃

第123回 歎異抄輪読会のご案内

日時 12月15日(木) 14:00~15:30頃

場所 天龍寺本堂

講師 松田 正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です

除夜会並びに元旦会

日時 12月31日(土) 23:30~24:30頃

場所 天龍寺 本堂

天龍寺報恩講・永代経法座のお礼

先般、11月16日(水)に当山に置きまして報恩講・永代経法座を執り行う事が出来ました。昨年同様、コロナ禍の中で、大変な時期にもかかわらず多数の方々のご参詣をいただきましたこと書面をお借り申し上げ感謝申し上げます。また、天龍寺総代様、天龍寺仏教壮年会のみな様には、ご多忙の中お手伝い・ご協力・ご尽力等を賜りましたこと厚くお礼を申し上げます。

広島大学仏教青年会会館清掃奉仕に感謝申し上げます。

1月23日(水)に広島大学仏教青年会館にて、元光華女子大学講師 渡邊愛子先生をお招きしHUBA 第46回公開講演会がありました。講演会実施するにあたり、会館の清掃奉仕を天龍寺仏教壮年会のみなさまにより、度々していただきました。清掃奉仕に対しまして、広島大学仏教青年会に關係されています先生方からお礼のお言葉をいただきました。

高飛車ながら、ここに先生方に代わりまして、天龍寺仏教壮年会のみなさまに厚く感謝申し上げます。

出逢いがあれば必ず別れがある世界に生きている存在 II

いくら文明が発達しても、現代のわれわれも、おそらくわれわれの子孫も、先人が歩んだ道と同じ道を歩みながら、この一度の娑婆の人生をおくっていくのかとも、近頃個人的に思うことがあります。

少し話は展開をしますが、先般の勉強会でもご指南をいただきましたが、「我愛」の言葉のごとく、世界で一番かわいいのは自分、一番正しいのは自分、人間は自己中心的な存在であるが故に、家族、親族、近隣、仕事関係も含め、大切な方々と傷つけあい、時に憎しみあいながら生きて行かなくてはならない存在であると還暦を過ぎ実感することでもあります。

またこの点も還暦を過ぎ度々思うことですが、どのような才能に恵まれようが、どのような頭脳を持とうが、どのような財産に恵まれようとも、はたから見ればうらやむような人生であっても、その人の立場に立てば、やはりそれぞれが娑婆の人生、堪忍度を歩む人生を送らなくてはならないと思うことです。

さらにある本の中で書かれていたと記憶しておりますが、どのように華やかな人生を歩んだ人でも、必ず老いて病んで死で行く存在であり、高飛車ながら人の人生とは、はかないものだと還暦を過ぎ5年が過ぎようとしておりますが、私なりに感じることもあります。

本願寺の8代のご門主が御文書の中で、「人の一生は、夢幻のごとく一期なり。」と言っておられますが、自分の人生も今から振り返りますと、その時その時私なりに一生懸命生きてきたつもりですが、あっという間の65年であったと思うことがあります。ある意味「夢幻のごとく」の65年であったかなとも思うことです。

最後にみなさまに置かれましては、自らの人生がどこで終焉を迎えるか分かりませんが、娑婆の縁を去る瞬間まで、どこまでいっても意図しない、願わないご縁が続いていきますが、その日その日のご縁の中で自分なりの精一杯の命の輝きを放ちながら、私も含め厳しい現実の人生を歩まれますことを念じ申し上げます。

以前にも申したと思いますが、先般の勉強会でも「人生を結論とはせず、人生の全てのご縁を南無阿弥陀仏のご縁としていただき、それぞれに厳しい現実の人生を歩みなさい。」とご指南をいただいたことでもあります。

近頃このご指南をいただきますと思うことに「お寺という所は、不思議なところで、ご当家との悲しいご縁を通してみなさまとお逢いしたことです。」なかなか難しいことではありますが、重ねて日々のご縁を大切にされながら、相対の世界に生きている私たちは、常に人と比較し、比較されながら生きて行かなくてはならない人生ですが、命の輝きは比較が出来ないと思います。その時にしか放てない命の輝きを放ちながら一度の人生を歩まれますことを念じ申し上げます。